

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4月英国労働統計

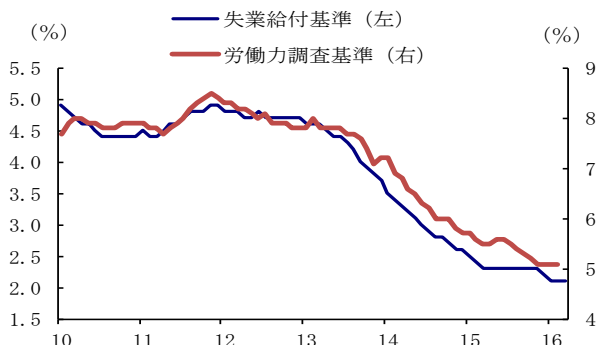
発表日：2016年4月20日(水)

～雇用指標にも国民投票の影～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

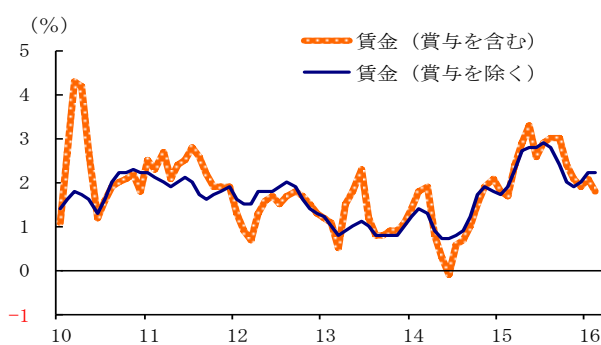
- 英国の失業率（労働力調査ベース）は2月から遡って3ヶ月の移動平均で5.1%と前月から不変、2006年初以来の低水準にある。単月の失業率は、新たに計算に加わった2月値（5.08%）が同一サンプルの昨年11月値（4.98%）からやや上昇。来月発表の3月値が5.34%（同一サンプルの昨年12月値は5.25%）を上回れば、ヘッドラインの失業率は四捨五入後で今月から上昇に転じる計算。
- 同時に発表された3月の失業給付ベースの失業率は2.1%と前月から横這いで、1975年初以来の低水準。ただ、失業率の計算で分子に相当する失業給付申請件数が7ヶ月振りに増加。国民投票を巡る不透明感から、新規の設備投資を手控える動きが雇用抑制につながっている模様。
- 全産業の週当たり賃金（賞与を含む）は2月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+1.8%と前月（11-1月平均の同+2.1%）から上昇率が鈍化。ただ、これは振れが大きい賞与の下振れ（前月：同+1.6%→今月：同▲2.5%）によるもので、賞与を除く賃金は前月から横這い（同+2.2%→同+2.2%）。前年同月の上昇率が高めだった来月以降の計数は再び鈍化する公算が大きい。
- 国民投票が「残留」の結果に終われば、手控えられていた経済活動が再開され、雇用も上押しされる。「残留」を前提に次に利上げ観測が高まるのは、国民投票後に賃金上昇率が反転した時と考えられる。前年比の推移から判断して、10月以降の賃金計数が上振れしやすい。

■英国：失業率



注：労働力調査基準は3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金（全産業、前年比）



注：3ヶ月移動平均値

出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2015						2016					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
失業率（失業給付、%）	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	
失業給付件数（前月差、千人）	-1.4	-1.0	-7.8	0.3	-1.3	-1.1	-3.2	-16.8	-28.4	-9.3	6.7	
失業率（労働力調査、%）	5.6	5.6	5.5	5.4	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.1	—	
（単月の失業率、%）	5.8	5.4	5.4	5.3	5.2	5.1	5.0	5.3	5.0	5.1	—	
就業者数（前月差、千人）	-67	-63	42	140	176	207	267	206	116	20	—	
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	3.3	2.6	2.9	3.0	3.0	2.4	2.1	1.9	2.1	1.8	—	
賃金	2.8	2.8	2.9	2.8	2.4	2.0	1.9	2.0	2.2	2.2	—	
ボーナス	6.5	-0.5	4.8	10.9	16.7	13.5	6.4	2.1	1.6	-2.5	—	

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。